

《資料》

部落解放研究関係文献目録

(一九八三年七月～九月)

【現状】

西日本新聞人権取材班「足で見て考える——新法一年・人権記者レポート」(『部落解放』二〇〇号、7月)

友永健三「生活の中の『反差別』」

(『月刊自治研』二八七号、8月)

大阪部落実態調査推進委員会事務局「今日における大阪の部落の実態(上)——82年大阪部落実態調査から」

(『部落解放』二〇二号、9月)

渡辺久丸「1982年現状・行政研究の成果と課題」

(『部落問題研究』七七号、9月)

道祖本地区部落実態調査推進委員会「部落解放道祖本地区実態調査報告書」(同上、9月)

【行政】

磯村英一「今日の同和行政の諸課題」

(『部落解放』二〇〇号、7月)

高野真澄「部落解放の課題と解放立法の展望」(同右)

北地則也「(動向)行政・和歌山県古座町の同和对策事業費問題」(『部落』四三三号、7月)

杉之原寿一「『地対法』施行後一年間の同和行政の動向」

(『部落』四三四号、7月)

杉之原寿一「杉之原寿一・部落問題著作集 第8巻 戦後同和行政の研究」(兵庫部落問題研究所、7月)

磯村英一編「同和行政論 II」(明石書店、8月)

渡辺久丸「1982年現状・行政研究の成果と課題」

(『部落問題研究』七七号、9月)

真田 是「地域改善対策特別措置法をめぐる理論問題」(同右)

【運動】

村越末男「(主張)二百号を迎えて新たな決意」

(『部落解放』二〇〇号、7月)

《特集》「部落の現状と解放の課題」(同右)

上杉佐一郎「戦後部落解放運動の軌跡と展望」

上田卓三「行政闘争の歩みと課題」

大原 亨ほか「二〇〇号以後にのぞむ」(同右)

大谷正明「第28回全国婦人集会報告」転機に立つ識字運動

(『解放教育』一六七号、7月)

〈特集〉「八鹿・朝来暴力事件」結審」

(『部落』四三三号、7月)

四方恒男・平松美也子・山内康雄・岩城伸雄「へ座談会」

「八鹿・朝来暴力事件」の裁判で問われているもの」

亀田順一「真の部落解放を願えばこそ」

東上高志「八鹿高校事件と教育」

土井大助「八鹿・朝来暴力事件結審公判傍聴記」

橋 謙「結審の日に思う」

黒田真隆「(動向)運動・83全闘方針の特徴と基本課題」

(同右)

吉井 章「(動向)運動・権力集中ならう本部に反発強まる―混

迷の度を加えた『解同』38回全国大会」(同右)

藤谷俊雄「新法をめぐる論議と反応」

(『部落』四三四号、7月)

成沢栄寿「1982年度の部落解放運動」(同右)

(資料)「部落問題をめぐる主な動き(略年表)」(同右)

兵庫県人権共闘会議「『人権侵犯救済申立』の結論出される―

『八鹿高校等事件調査報告書』について」

(『月刊部落問題』八〇号、7月)

日本弁護士連合会「(資料紹介)八鹿高校等事件調査報告書(抄)」

(同右)

小森龍邦「人間疎外の現状と部落解放運動」

(『月刊社会党』三二六号、7月)

野間 宏「狭山裁判第九十回―異議申立棄却決定批判(四)」

(『世界』四五二号、7月)

鎌元昌弘「再審を訴える人々、狭山裁判―はじまりは偏見であっ

た」(『日本の冤罪』所収、日本評論社、7月)

狭山中央闘争委員会「えん罪の構図」へ狭山差別裁判第一一五

号」(同上、7月)

〈特集〉「朝田善之助・委員長を偲ぶ」

(『部落解放』二〇一号、8月)

寺本 知「涙を怒りに変えて」

上杉佐一郎・上田卓三・奈良本辰也・(司会)平野一郎(へ座

談会)朝田善之助さん死んでも闘う人生」

橋本 要「へグラビア」故朝田善之助部落解放同盟葬」

(構成)谷口修太郎「へグラビア」朝田善之助と部落解放運

動」

〈追悼・朝田善之助さん〉

上杉佐一郎「朝田同志の死を悼む」ほか

〈朝田さんと私〉

米田 富「主客転倒の法廷問答」ほか

朝田はな「思ひ出」

(編集部)「朝田善之助さんの略歴」

丹波正史「(動向)運動・育英奨学金制度の抜本的改善に反対―

シンポジウム』これからの教育と教育費問題を考える」

(『部落』四三五号、8月)

丸井京二「(動向)行政・郵政現場での最近の動き」(同右)

中川泰一「現地報告―『解放研』の無法・横暴を許さず、職場に

自由と民主主義を―大阪郵政部落研のとりくみ」(同右)

藤川春雄「『被爆』・『部落差別』の歴史と現状―広島県福島部

落のとりくみについて」(『月刊部落問題』八一号、8月)

野間 宏「狭山裁判第九十一回―異議申立の棄却決定批判(四)」

(『世界』四五三号、8月)

足立区同和对策集会所裁判闘争を支える会「差別と逆流に抗して

反撃の陣型「支える会」が結成された」(同上、8月)

〈部落解放同盟第39回臨時全国大会報告〉

(『部落解放』二〇二号、9月)

(資料)「改正規約(第39回臨時全国大会決定)」

(資料)「規約改正の重要事項に関する解説」

鎌元昌弘「事実調べを強く要求しよう―狭山事件・二つの鑑定実

験から」(同右)

〈朝田さんと私―朝田善之助・元委員長を偲ぶ〉(同右)

上田 雄「言和事件のころ」ほか

橋本 要「へグラビア」石川「自由」のデッチあげが明らかに―

狭山事件で2つの鑑定実験」(同右)

土方 鉄「全国大会傍聴記―部落解放運動は転換期を迎えた」

(『解放教育』一六九号、9月)

(資料)「部落解放同盟綱領」(同右)

小森龍邦「部落解放の現状と課題」

(『月刊自治研』二八八号、9月)

【理 論】

小森龍邦「部落解放運動と理論的諸問題」

(『部落解放』二〇〇号、7月)

原田伴彦「部落問題をどう考えるか」(同右)

野間 宏「地球と人類生存の危機を考える―部落解放同盟への

問題提起」(同右)

(編集部)「『部落解放』分類別索引(創刊号～二〇〇号)」

(同右)

杉尾敏明「部落問題研究の今日的課題をめぐって―第一二回研究

集會に期待する」(『月刊部落問題』八〇号、7月)

〈特集〉「新しい解放理論のために」

(『部落問題論究』八号、8月)

矢之原寿一「『解同』の理論的混迷の深化―解放理論の発展

のために」

《第五回全国部落解放研究者集会の概要》

(『部落解放研究』三五号、9月)

中村清二「人権行政部門会議の概要報告」

加藤敏明「啓発・運動部門会議の概要報告」

前川 実「教育・地域部門会議の概要報告」

渡辺俊雄「歴史・理論部門会議の概要報告」

大賀正行「研究者集会のまとめ」

【解放教育】

寺沢亮一「子どもたちがおかれている現状と部落解放教育の課題」(『部落解放』二〇〇号、7月)

《特集》「子どもたちの中でいま起きていること——生活と教育の空洞化に抗して」(『解放教育』一六七号、7月)

川合正明「中学生——とり残された層と」

中村弘三「子どもの変ぼうと解放教育——部落と子どもたちの生活はどう変わったか」

西山修・野口良子・木下健二・安満洋一・(司会)石坂正司

「〈座談会〉荒れる子どもと荒れさせる状況と——大阪の現場報告」

全国解放教育研究会事務局「(第13回全国解放教育研究会集會基調提案)自立と連帯——攻撃に対して反撃を」(同右)

山田彰道「満州族のように」(同右)

兵庫県人事委員会「(資料)裁決書(抜粋)」(同右)

(資料)「教育・部落問題動向(1983.3~83.5)」(同右)

部落解放子ども会大阪連絡協議会『第10回総会討議資料』

(同上、7月)

桂 正孝・内山 毅・小田裕男・深海達之・紺屋良一「教材解釈のすすめ(討論)——『にんげん』三年生新教材から」

(『解放教育』一六八号、8月)

河内長野東中学校同研部「『教育』を超えた一枚の生徒会新聞——8・6の取り組みから」(同右)

(資料)「歌本処分人事委員会審理最終準備書面抄」(同右)

《特集》「就学前の保育・教育の問題」

(『部落』四三三号、8月)

東上高志「今日の部落問題と保育」

大阪府役所部落問題研究会「大阪市の同和保育、現場からの報告」

大津市立下電華保育園「私たちの同和保育実践——十年の歩みのなかで」

菅野照代「『同和保育実践』の中で何を力とし得たか」

土方康夫「就学前教育の課題を明らかにするためにへそのく——話しトトバと書きトトバのちがいを手がかりに」

山田 稔「(動向)教育・同和地区の高校進学率大きく落ちこむ——滋賀県同教、要因・背景の分析をすすめる」(同右)

《民主的討論用特集——民主(同和)教育の発展のために——私の意見、問題提起》(『部落問題』四五号、8月)

(資料)「歌本処分人事委員会審理最終準備書面抄」(同右)

東上高志「『人間権の教育』を求めて——同和教育の再生を」

(『部落』四三四号、7月)

《特集》「同和教育の課題を明らかにする」

(『同和教育運動』二二号、7月)

東上高志・大同啓五・斎藤浩志・梅田修・(司会)石田真一「〈座談会〉同和教育の課題を明らかにする」

谷口勝巴「学校・地域を結ぶ同和教育」

竹中成圓「地域学習会のとりくみ」

池上幸雄「小学校における歴史学習と人権」

大平安雄「高校生の人権意識を高めるために——同和教育テキスト『なままとともに』を活用して」

大同啓五「(資料)戦後同和教育史・3」京都田中子ども会活動の意義」(同右)

松山民男「同和教育をめぐる各地の動き・4——岡山県のいわゆる名称問題——岡山県における『解同』『県同教』の教育介入」(同右)

名越弘文「《現地報告》三次高校事件の経過と問題点」(同右)

(資料)「『解同』の泉川中学校への不当な教育介入をはねのけ、学校の主体性、教育と民主主義を守る闘いを前進させよう」(同右)

(資料)「『八鹿・朝来暴力事件』論告要旨」(同右)

(資料)「一九八三年度同和教育研究会京都府連合会研究活動計画」(同右)

原田 親「真に正しい民主(同和)教育を推進しよう」ほか大阪府同和教育研究協議会『合本・大同教通信VOL.3』

(同上、8月)

玉置哲淳「『解放の学力』に関する若干の考察と試論」

(『部落解放研究』三三三号、9月)

渡久山長輝「部落解放教育を教組運動としてどう取り組むか」(同右)

川向秀武「(ある視点)『こだわり』に執着することから」

(『解放教育』一六九号、9月)

《特集》「子どもたちの生活をどう組織するか」(同右)

山中多美男「子ども会に期待するもの——真に組織された集団を」

部落解放同盟松原支部青年部・高校友の会「二〇周年記念リーフ運動をとりくんで——更池の水平社宣言『いっしょにやらせな』」

部落解放北芝子ども会指導者集団「『むら』なかで子育て論議を」

部落解放同盟西郡支部子ども会「縦割り活動の充実をめざして」

高槻富田支部子ども会「共同版画◇彦殺」

石丸時次郎「『ムラ』の子どもは青年が育てにゃ」

新美好正「子どもを知らない教師だったから——新卒一年目のあのこと」

山中多美男・鈴木祥蔵・(司会)編集部「〈対談〉部落解放運動

と教育の課題」(同右)

青雲闘争・敵本救援会事務局「敵本処分撤回・現場復帰のお礼と報告」(同右)

石田真一「現代の教育と同和教育研究の課題」(『部落問題研究』七七号、9月)

東上高志「統『人間権の教育』を求めて―河瀬哲也著『人間になるんだ』の検討のすすめ」(『部落』四三六号、9月)

東上高志「大学における同和教育―第七回大学同和教育研究会の報告」(同右)

石田真一「部落の子ども記―一冊の本」

(『月刊どの子ども』七七号、9月)

東上高志「いま同和教育から学ぶこと―教師は問題の提起者」

(同右)

中山 博「岡山県の『民主教育』名称をめぐるたたかひの課題」

(『月刊部落問題』八二号、9月)

小林初枝「ただいま村五分―職場のなかで」

(『学習のひろば』二五九号、9月)

第3回北九州地区解放教育研究大会実行委員会「第3回北九州地区解放教育研究大会要録」(同上、9月)

河瀬哲也「人間になるんだ 上巻 生活指導」(部落問題研究所、9月)

桑村 寛「近代の教育と夜学校」(明石書店、9月)

【人権】

アンベードカルの生涯」(『部落解放』二〇二号、8月)

新井士郎「風雪の紋」(『解放教育』一六八号、8月)

《大特集》「女性解放運動の現在―深化する差別・抑圧の社会構造」(『新地平』一〇六号、8月)

大野町子「雇用平等法制定をめぐって」ほか

(資料)「婦人に対するあらゆる形態の差別撤廃条約」ほか
関千枝子「再び朝鮮語資料について」

(『みんなの図書館』七五号、8月)

《特集》「今日の在日朝鮮人」(『季刊千里』三五号、8月)

大沼保昭・姜在彦「対談 在日朝鮮人の現在と将来」

小沢有作「在日朝鮮人教育実践の軌跡」

小杉尅次「新しい共同体形成のための一試論」

徐龍達「定住外国人教授への道」

飛田雄一「在日朝鮮人と指紋」

李孝子・曹貞姫・朴福美・全和子・魏良福「へ座談会」いま

『在日』を考える」

岩崎悦子編『シリーズ・いまを生きる 8 女・男たちへ』

(ユック舎、8月)

金城実『土の笑い、オキナワへ、オキナワから』

(筑摩書房、8月)

もうさわようこ『解放の光と影、おんたちの歩んだ戦後』

(ドメス出版、8月)

河出書房新社編集部『死者が語る戦争』(河出書房新社、8月)

友永健三「(特別報告) 世界人権宣言三十五周年を迎えて」

野本三吉「『浮浪者』殺傷事件に思う」

(『解放教育』一六七号、7月)

宮 淑子「学校が生みだす構造のもとで」(同右)

さねとう・あきら「へ浮浪者狩り」の意味するもの」(同右)

池田道雄「子どもたちの今と昔」(同右)

竹澤哲夫「財田川、松山事件の被告も釈放を」

(『朝日ジャーナル』一二七八号、7月)

高杉晋吾「押しつぶされた市井の常識」(同右)

(資料)「『国籍法改正に関する中間試案』についての意見書」

(『自由と正義』三四卷七号、7月)

内海愛子「広がる『指紋押なつ』拒否」

(『世界』四五二号、7月)

大和田敢太「フランス女性の平等と自立―政府が笛を吹くとき」

(『エコノミスト』二五二四号、7月)

鈴木沙雄「メディアと軍縮―ユネスコ国際シンポジウムに参加して」(『新聞研究』三八四号、7月)

北川善英「公法学の動向―ロペール・ペルー『不平等に関する新しい議論とフランス公法』」(『法律時報』六七二号、7月)

全国婦人の集い実行委員会「第24回全国婦人の集い記録集―85に

むかって前進―男女の平等をめざして自立・連帯・行動」

(同上、7月)

家永三郎ほか編・南博解説「正木ひろし著作集(6) 夢日記・若

き日の断想・スケッチ集」(三省堂、7月)

沖浦和光「(本の紹介) ダナンジャイ・キール著、山際素男訳」

(同上、7月)

林 力「『部落解放』の息子として(連載第一回)」

(『部落解放』二〇二号、9月)

《特集》「『世界人権宣言』三十五周年」

(『部落』四三六号、9月)

渡辺久丸「人権の発展と差別問題―世界人権宣言三十五周年記

念にちなんで」

寿岳章子・池上惇・石田真一「(てい談) 今日の人権問題を

めぐって」

生瀬克己「『孤独』と『放置』の精神史―障害者たちの「近世」

・年表編」(千書房、9月)

全日本労働総同盟「労働組合活動への婦人の全面的参加を促進し

よう―同盟婦人行動計画の実践」(同上、9月)

日本精神薄弱者福祉連盟「精神薄弱者問題白書 1983年版」

(日本文化科学社、9月)

【社会啓発】

八木晃介「現代日本の社会意識と差別意識」

(『部落解放』二〇〇号、7月)

友永健三「人権擁護と同和教育(同問題啓発シリーズNo.4)」

(『大阪職業ニュース』一八七号、7月)

(用語問題特別取材班)「拡大する放送禁句(第三弾)」

(『放送レポート』六三三号、7月)

社会同和教育研究会「社会教育における同和教育」

(同上、7月)

社会同和教育研究会「社会教育における同和教育」

(同上、7月)

社会同和教育研究会「社会教育における同和教育」

(同上、7月)

社会同和教育研究会「社会教育における同和教育」

(同上、7月)

社会同和教育研究会「社会教育における同和教育」

（部落問題研究所、7月）

井上英之「社会同和教育の交流と研究がいま、なぜ必要なのか」
（『部落』四三五号、8月）

東上高志「成人の部落問題学習をどうすすめるか—社会啓発・地区懇・企業内同和研修」（同右）

村上博光「社会教育でどうとりくむか—公民館・関係団体・学級・講座」（同右）

大前哲彦「地区内の学習・文化活動の発展をめざして—隣保館・教育集会所・婦人・青年等」（同右）

長谷川善計「生き方の探求と同和学習—市民啓発を『私のため』の学習に」（『部落問題論究』八号、8月）

川村善二郎「東京の社会教育でも同和教育にとりくもう—歴史学習の講師の雑感」（『月刊社会教育』三一八号、8月）

八木晃介「反差別のコミュニケーション過程—マス・メディアと社会啓発」（『部落解放研究』三五号、9月）

大阪府労働部「企業内同和問題研修推進員の同和問題に関する意識調査結果の概要報告」（同右）

村上博光「社会同和教育・社会啓発の研究動向」
（『部落問題研究』七七号、9月）

友永健三「人権擁護と同和問題」
（『大阪の中小企業』三二八号、9月）

人権啓発推進大阪協議会・大阪府「よりよき指導者をめざして—人権関係資料集」（同上、9月）

蔵本穂積「子どもと綴る」

中島 誠「解放の芸術—論争と歴史」

石田真一「部落の子どもの記」水巻」

（『月刊の子も伸びる』七六号、8月）

教育実践史研究会「人物でつづる教育実践史—伊東茂光と宗仁小
学校の教師たち」（同右）

東上高志「いま同和教育から学ぶこと—教師は学習権の保障者」
（同右）

谷口幸男「現場訪問—地域にのびた手づくりの同和教育—和
歌山県南部小学校に学ぶ」（同右）

杉尾敏明「解放保育—論批判」（『部落問題論究』八号、8月）

石飛 仁「三国連太郎の白い道—差別の根源にせまる独自のた
かご」（『新地平』一〇六号、8月）

横田三郎「神聖喜劇」の中の人権闘争」

（『社会評論』四四号、8月）

沖浦和光「巷談『四谷怪談』から浮かび上がる世界（上）—『悪
所』に秘められたお上への挑発性」

（『朝日ジャーナル』一二七九号、8月）

《第五回全国部落解放研究者集会（報告）シンポジウム「差別と
表現を考える」》（『部落解放研究』三五号、9月）

村越末男「司会者よりの提唱」

田村正男「シンポジウム報告①差別と表現を考える—マス
コミの立場から」

井上正一「シンポジウム報告②辞書にみる『部落問題関連連用

【文化・思想】

土方 鉄「『われわれの文学』の現状」

（『部落解放』二〇〇号、7月）

北川鉄夫「戦後映画のあらうぼい回想」

（『部落』四三三号、7月）

〈最近の部落問題を描いた映画から〉

内田正志「美しい季節」（同右）

宮田一夫「まごころの川」（同右）

瀬川負太郎「青春のかけ橋」（同右）

北川鉄夫「文化問題の正と負」（『部落』四三四号、7月）

山田洋次・住井する「『寅さん』と『橋のない川』」（同右）

《特集》「表現と解放」（『解放教育』一六八号、8月）

〈私にとって表現とは〉

山田洋次「寅さんのひとこと」

松江ちづみ「出会いの中で生きて」

大川恵美子「だれでも芸術家になれる」

中上健次「生のままの子」

高橋邦逸「矢部町の識字運動」

加藤陽一「部落が語りかけるとき—豊前小倉三支部でのきき
かきよの」

池本耕三「サンシン（沖縄三味線）との出会い」

安田三郎「『おらたちには口はなえだに』を实践して—共同
製作木版画に取り組み中で」

語』の解説内容の変化」

渡辺俊雄「シンポジウム報告③歴史的史料・文献の扱いにつ
くつ」

寺本 知「シンポジウム報告④部落解放同盟の立場から考え
る」

（討論）

《創る—みんなでつくる文化のページ》

（『部落解放』二〇二号、9月）

原田朱美「（詩）成長」ほか

奈良県部落解放研究所「こうして生きてきた労働 1」

（同上、9月）

【宗教】

河野信子「私の読書日記—差別と宗教」

（『朝日ジャーナル』一二七六号、7月）

平井清隆「蓮如とその生母の謎（六）」

（『大法論』五〇巻七号、7月）

大沢伸雄「（本の紹介）近藤祐昭著『部落差別と真宗の課題』」

（『部落解放』二〇二号、8月）

鳥飼慶陽「宗教の基礎—部落解放論とかかわって」

（『部落問題論究』八号、8月）

平井清隆「蓮如とその生母の謎（七）」

（『大法論』五〇巻八号、8月）

成沢栄寿「『宗教と部落問題』をめぐる諸問題—その他二、三に

「触れて」(『部落問題研究』七七号、9月)
 平井清隆「蓮如とその生母の謎」(八)
 (『大法輪』五〇巻九号、9月)

【通史】

奈良本辰也「戦後における部落史研究の出発」
 (『部落解放』二〇〇号、7月)
 山本尚友「とにかく批判しとこ」(『こべる』六七号、7月)
 本田 豊「狭山の部落史(連載第十一回)」
 (『狭山差別裁判』一一五号、7月)
 藤谷俊雄「連載・二〇世紀に生きる—あるインテリの自伝的歴史」
 (3)「目次」(『部落』四三三号、7月)
 馬原鉄男「部落問題の世界史的位置」(『部落』四三四号、7月)
 岡 映「松本清張氏と部落問題」
 (『月刊部落問題』八〇号、7月)
 竹永三男「〈書評と紹介〉『藤谷俊雄所長古稀記念論集』(部落問題研究74臨時号)」(『日本史研究』二五一号、7月)
 土方 鉄「朝田さんの思ひ出」(『解放教育』一六八号、8月)
 塩田庄兵衛「(動向)研究・水平運動家の軌跡・アナからボルへ—山本利平氏に聞く」(『部落問題研究』73輯)を読んで
 (『部落』四三三号、8月)
 藤谷俊雄「連載・二〇世紀に生きる—あるインテリの自伝的歴史」
 (4)「生と死」(同右)
 部落問題研究所「新版やさしい部落の歴史」(同上、8月)

和『被差別部落と一揆』

(『朝日ジャーナル』二二七号、7月)
 塚田 孝「弾左衛門支配と新町宿」
 (『史学雑誌』九二巻七号、7月)
 北川 健「部落の生活史16—新撰組と茶釜隊と維新団」
 (『部落』四三五号、8月)
 人見彰彦「(シリーズ)部落史のひとこま」
 (『部落問題』四五号、8月)
 中尾健次「(本の紹介)岡本良一著『乱・一揆・非人』」
 (『部落解放』二〇二号、9月)
 井手幸喜「1982年前近代部落史研究の成果と課題」
 (『部落問題研究』七七号、9月)
 塚田 孝「〈回顧と展望〉(追加)〈身分制・部落史」
 (『史学雑誌』九二巻九号、9月)
 網野善彦「蓑笠と柿帷—一揆の衣裳」(『色』増刊号、一九八四年六月)

【近現代】

事務局(杉山)「(資料紹介)岡山の水平運動②無産少年団を組織—厚生小差別糾弾闘争」(『部落問題』四五号、8月)
 伊藤 久「高松差別裁判の勝利に学ぶ—部落民大衆の不屈のたたかいから」(『社会評論』四四号、8月)
 近現代史部会「大阪『部落台帳』の分析」
 (『部落解放研究』三五号、9月)

部落問題研究所「北原泰作部落問題著作集 第3巻」

(同上、8月)

村越末男「(本の紹介)松井久吉著『被差別部落に生きる—わが半生の記』」(『部落解放』二〇二号、9月)

山本尚友「喜田貞吉と職業起源説」(『こべる』六九号、9月)
 平野一郎「朝田善之助さんの死を悼む」

(『解放教育』一六九号、9月)

(語り手)森本藤治郎・(聞き手)山角美智子「(水平社を支えた人たち)よう働きまして(上)—播州平野に生きて」
 (同右)

山口 圭「岡山県水平社創立六〇周年を記念して」

(『部落』四三六号、9月)

重岡式興「広島県水平社六〇周年記念集会開く」(同右)

藤谷俊雄「連載・二〇世紀に生きる—あるインテリの自伝的歴史」
 (5)「戦後恐慌始まる」(同右)

【前近代】

のびしょうじ「部落の生活史15—播磨高木村の皮革業と仁太夫」(『部落』四三三号、7月)

河野勝行「わが国古代末期から中世初頭における障害児観—触穢思想による『非人(キヨメ)五体不具』説の形成」

(『科学と思想』四九号、7月)

沖浦和光「(本からのメッセージ)《貴・賤》に《浄・穢》観が重なった差別形成の原点—石尾芳久『一向一揆と部落』・東義

長崎県部落史研究所「近代の被差別部落—長崎にみられる諸資料の紹介を通して」(同右)

守屋 茂「岡山県における融和事業(下)」

(『こべる』六九号、9月)

中村福治「近・現代部落史研究の成果と課題」

(『部落問題研究』七七号、9月)

藤野 豊「(資料)神奈川県融和運動史年表(4)—1935~19

36」(同右)

後藤正人「(史料紹介)集会条例第七条の現実—演説会傍聴を拒否された大和国和爾村戸長」(『月刊部落問題』八二号、9月)

藤田源市「戦争とファシズムに対決する部落解放運動」

(『壁と炎』創刊号、9月)